

登録コード	E2165900	開講年度	2026			
授業科目	政治学基礎				担当教員	三浦 正士
英文授業名	Lecture on Politics				副担当	関 良徳
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・4時限	対象学生
講義室	教育N１０１講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	・政治・行政の制度と政治過程を理解することを通じて、現代の政治社会の諸問題を体系的に考察する力を養うこと。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	・政治学の基礎的な概念を習得するとともに、社会において政治が果たしている機能を理解すること。
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	政治学とはいかなる学問であるのか、現実の諸問題をどのように読み解くことができるのか、政治学の諸議論を講義形式で説明する。政治学の研究対象は広範にわたっており、それらを体系的に理解するために、地方自治（ローカル）から国際政治（グローバル）まで幅広いテーマを取り上げることで、グローバルな視野でデモクラシーのあり方を展望することのできる講義内容とする。また、各授業のテーマに関して近年生じている具体的な問題について考察することで、受講生の主体的な思考形成を促す。					
(5)授業計画	第 1 回：オリエンテーション、政策の対立軸と政府の役割：授業の進め方についての説明を行うとともに、政治学の学びの導入として、政治的な争点と政策の対立軸がどのようなものか、なぜ社会において政府が必要なのかを考察する。（教科書：序章、第1章） 第 2 回：自由と自由主義、福祉国家：自由の概念：自由の概念がどのように変遷を遂げてきたか、そのなかで福祉国家がどのように位置づけられるのかを考察する。（教科書第3章、第4章） 第 3 回：国家と権力、市民社会と国民国家：権力の概念と正統化原理について理解するとともに、市民社会の多様性について考察する。（教科書第5章、第6章） 第 4 回：国際関係と政治：国際関係の特質と、そこにおける政治的諸問題（安全保障や富の配分等）について、国内政治との違いを意識しつつ考察する。（教科書第7章、第8章） 第 5 回：統治のシステム（議会と執政）：議院内閣制と大統領制を比較しつつ、統治をめぐる諸制度について考察するとともに、日本の政治史についても取り上げる。（教科書第10章、第11章） 第 6 回：官僚制と行政のマネジメント：「官僚制」概念を鍵に行政の抱える問題を考察するとともに、行政の組織や管理をめぐる諸理論を説明する。（教科書第12章） 第 7 回：政府体系と中央地方関係：国と自治体という政府間の関係についての諸理論を説明するとともに、地方分権改革の意義を展望する。（教科書第13章） 第 8 回：地方自治の諸論点：近年重要性を増す地方自治の諸論点について取り上げ、地域における政治と行政、デモクラシーのあり方を考察する。（教科書第13章） 第 9 回：政策過程：政策がいかなるプロセスで形成され実施されるのか、その理論と現実を考察する。（教科書第15章、第16章） 第10回：デモクラシー：デモクラシーの概念がどのように発展し、民主主義体制が成立したのか、現代の民主主義がいかなる危機に直面しているのかを考察する。 第11回：選挙と投票行動：デモクラシーを支える基本的な仕組みである選挙に着目し、その制度や有権者の投票行動について考察する。（教科書第18章） 第12回：政治文化と世論・マスメディア：政治的な意見や態度、価値観の変容について考察するとともに、マスメディアと世論の関係について考察する。（教科書第20章、第21章） 第13回：政治参加：政治参加の役割や形態について説明し、市民論や参加民主主義論についても取り上げる。（教科書第19章、第22章） 第14回：政党と利益団体、授業アンケート：政党の役割と機能について考察するとともに、利益団体と利益政治について取り上げる。また、授業内において授業アンケートを実施する。（教科書第23章、第24章） 定期試験 ＊授業最終回に授業アンケートを実施する。 ＊教育実習等での欠席者に対しては、適宜レポート課題での補講を実施する。					
(6)成績評価の方法	・政治学の基礎的な概念を習得するとともに、社会において政治が果たしている機能を理解しているかを測るために次の方法で評価を行う。 ・期末試験60%、授業への参加度40%（リアクションペーパー等）で成績評価を行う。					
(7)成績評価の基準	①政治学の基礎的な概念を理解しているか、②政治学の理論を現実のさまざまな問題に当てはめて考察しているか、③社会の諸課題に対して主体的な問題関心をもっているか、④独自の見解をもち説得的に論じているか、⑤講義内容を踏まえて論述しているか、という5項目を基準に評価する。すべてを満たしていれば「卓越している」、4項目を満たしていれば「かなり上にある」、3項目を満たしていれば「やや上にある」、2項目を満たしていれば「合格水準にある」といえる。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(8)事前事後学習の内容	・事前学習：教科書の該当する章を精読し、わからない箇所や気になった点について調べておく。 ・事後学習：各回において指示する小レポート、リアクションペーパー等の作成にあたる。また、国や自治体の政治動向に関する報道等を収集し、講義内容の理解を深める。					

(8)事前事後学習の内容	・この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。
(9)履修上の注意	毎回課題を提出するとともに、主体性をもち積極的な姿勢で取り組むこと。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	・授業に関する質問は、原則として、毎回の授業で提出を課すリアクションペーパーで受け付ける。リアクションペーパーで受けた質問は、次回授業の冒頭で回答し、受講生の間で内容の共有を行う。 ・その他の質問や相談については、メール（miura.masashi@u-nagano.ac.jp）で受け付ける。
【教科書】	久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝『政治学 補訂版』有斐閣、2011年
【参考文献】	・各回において、学修を深めるうえで参考になる文献・先行研究を適宜紹介する。